

# 人権学習展開例

- 主題名                    オリンピック・パラリンピックと人権
- 教材名                    パラリンピックの意義
- 人権学習の視点        普遍的な視点「生命や人間の尊厳」  
個別的な視点「障害のある人の人権問題」

## ●主題・教材について

国際パラリンピック委員会(IPC)は、パラリンピアンたちに秘められた力こそがパラリンピックの象徴であるとし、「勇気、強い意志、インスピレーション、公平(平等)」の4つの価値を重視している。様々な障害のあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックは、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場であり、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や発想の転換が必要であることに気づかせてくれるという意義がある。オリンピック憲章の「オリンピズムの根本原則」に、「このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」と掲げられていることも合わせて、この教材を通して、私たち一人一人が自他の価値を尊重し、多様性を認める姿勢を養いたい。

## ●ねらい

パラリンピックの意義について考えることを通して、パラリンピアンをアスリートとして尊重し、パラスポーツを競技スポーツとして認める姿勢を身につけさせる。また、オリンピック・パラリンピックと人権との関わりについて関心を持ち、観戦等しようとする態度を育てる。

## ●関連する教材

人権学習資料集〈高等学校編〉「1 夢を跳ぶ～パラリンピック・アスリートの挑戦～」

## ●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○オリンピック・パラリンピックにピクトグラムが採用された理由を考えさせる。		○提示資料を見る。	○1964年東京オリンピック・パラリンピックで初めて使用された、誰にとってもわかりやすい情報であることを押さえる。  ○オリンピック・パラリンピックは人権に配慮された大会であることを伝える。	提示資料 プロジェクト
展開	○オリンピックとパラリンピックの違いについて考えさせる。	個別	○ワークシートの(1)を考える。	○違いを考えることを通して違わないところにも意識を向けさせる。	ワークシート

### オリンピックとパラリンピックの違いってなんだろう

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○写真を提示しワークシートに記入させる。		○ワークシートの(2)を考える。	○5枚目はオリンピック・パラリンピックどちらにも出場したナタリア・パルティカ選手(ポーランド)	
	<b>パラリンピックが開催される意義を考えよう</b>				
	○オリンピック・パラリンピックの目標について考えさせる。  ○パラリンピックの意義について考えさせる。  ○多様性を認め、「違い」を認め合うことで、競技スポーツとしてのパラスポーツを認め、障害・障害のある人への見方を変えていくことが大切であることを伝える。	個別	○ワークシートの(3)を考える。  ○ワークシートの(4)を考える。  ○パラスポーツについての説明を聞く。	○メダル獲得、自己肯定感を得る、周囲を励ます等が考えられる。  ○アスリートとしての思いや喜びは同じである事をおさえる。  ○障害のある人もスポーツで一番を目指し、自己肯定感を得たり、周りの人に元気を与えたりすることができる大会であることを押さえる。  ○パラスポーツへの無理解や無知があると、誤った認識や、パラスポーツを下に見る人が出てくることをおさえる。  ○障害の有無だけで判断しないようにすることが大切であることを強調する。	
まとめ	○感想を書かせる。	全体	○ワークシートの(5)を書く。	○人権の視点からオリンピック・パラリンピックを観戦するように促す。	

### ●評価

- ・パラリンピアンをアスリートとして尊重する姿勢・態度が身についたか。また、パラスポーツを競技スポーツとして認めよとする姿勢・態度が身についたか。
- ・オリンピック・パラリンピックと人権との関わりについて関心を持ち、多様性を認めようとしているか。

### 【ワークシート】 (2)の答え

- ①パラリンピアン      ②パラリンピアン      ③パラリンピアン  
④オリンピック      ⑤どちらでもある